

松ヶ崎の家Ⅲ

・設計：吉村篤一+建築環境研究所
・施工：ゼロ・コーポレーション

この家は松ヶ崎の古い集落から少し外れた新しい住宅地として開発された地域にある。周辺は同程度の規模の敷地にさまざまな形の家が建っている、よくある新興住宅地の風景を呈している。どちらかといえば間口が狭く奥行きが長い敷地条件から、長方形の中庭を設け、リビングとの開口部は全面ガラスで内外が一体感のある気持ちのよい空間となることを意識した。内部には吹き抜けがあり、実際の面積より広々とした空間を楽しむことができる。吹き抜けには冬期は障子を水平に嵌めることにより、柔らかな光を取り込みながら、寒さ対策にも配慮している。

(吉村篤一・奥野八十八)

